

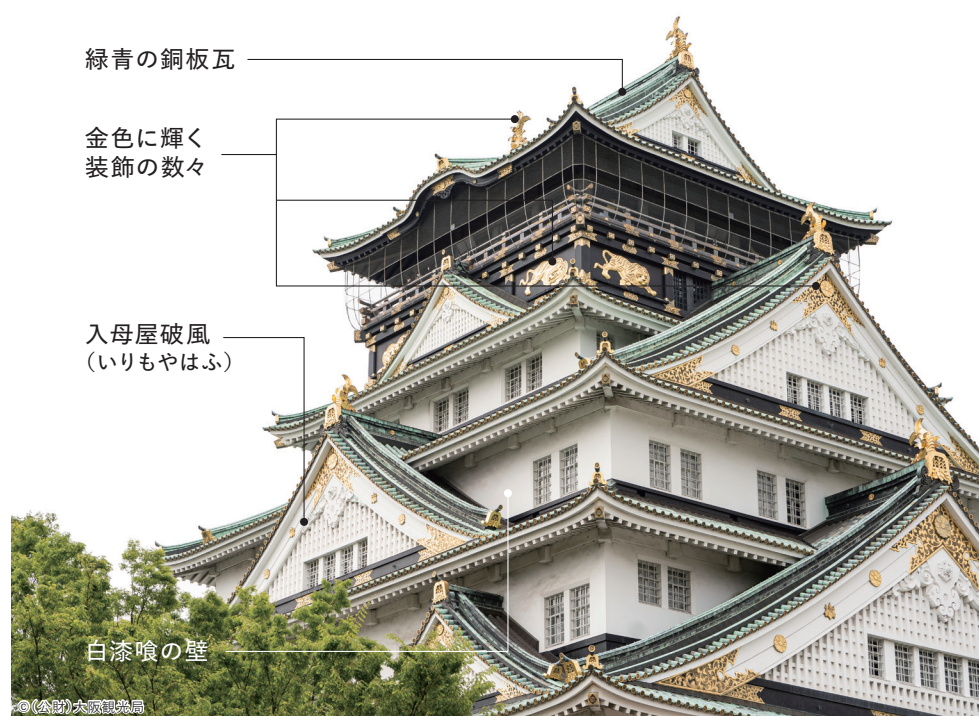
2 大阪城天守閣について

大阪城(大坂城)は、天正11年(1583年)から豊臣秀吉により築されましたが、大坂夏の陣で焼失し、その後徳川幕府の手で全面的に築き直されました。

現在の天守閣は、豊臣時代・徳川時代に続く3代目で、昭和6年(1931年)、市民の寄付により、豊臣時代の姿を再現することを目標に復興されました。

建物構造は鉄骨鉄筋コンクリート造、外部5層、内部8層で、館内は秀吉の時代や大阪城の歴史を中心とした博物館施設となっています。

平成9年(1997年)の大改修により、復興時の美しい外観がよみがえるとともに、耐震補強が施されました。



主な外観の特徴

緑青の銅板瓦

屋根には約55,000枚の銅板瓦が葺(ふ)かれ、軒先には秀吉の時代と同じく金箔をあしらった軒丸瓦が並びます。

金色に輝く装飾の数々

金箔押しの伏虎(ふくこ)のレリーフや鯨(しやち)、高欄鋳金物(こうらんかざりかなもの)が天守閣を華やかに彩っています。

入母屋破風(いりもやはふ)

大胆でリズムカルな配置ときらびやかな鋳金物が、外観のアクセントになっています。

白漆喰の壁

熟練の左官職人さんが全力を注ぎ、手仕事によって美しく仕上げられています。

黒い回廊

天守閣の眺望を特徴づける最上層の回廊は黒を基調とし、白漆喰の壁や金の伏虎と鮮やかなコントラストをなしています。

天守閣のHP

